

7/17(土) まっぴい倫理号です。皆んな朝めございませう。来週は「よっよ」オリエンタル
初めは、そのテレビ観戦でも楽しみたいものです

苦難は自分自身のわがままから。このわがままが分らない人もいます。
聴いてみまわ。愛犬に!!
7月のテーマ | 万象我師

2021. 7. 17~7. 23

1238号

幸せの心は息

今週の
倫理

倫理経営の基盤である純粹倫理の学びとは、(目の前に起きた「苦難」の解決)を目標に日々の生活を正していくことです。では、この苦難の原因とは何でしょうか？それは「自分自身のわがままな心」です。

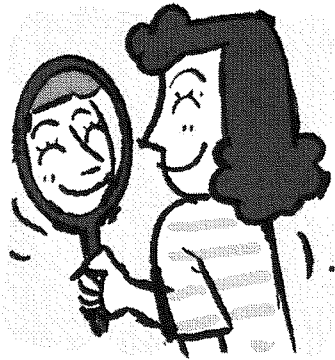
Y氏は、三十歳になる目前に、建設会社を起業しました。事業を軌道に乗せるために、無我夢中で働くなかで、様々なお客様と接しました。無理難題な注文をする人、一度決めたことを直前で変更する人など様々で、予想の範疇を越えた要求を受けることも度々でした。

しかし、お客様であるOさんとの出会いが、Y氏の人生観を一変させるきっかけとなったのです。Oさんは、仕事の打ち合わせも即断・即決で、変更の要求もなく、Y氏の意見も真摯に聞き入れ、工事そのものもスムーズに進みました。

Y氏はOさんのように、お客様を思いやり、心から信頼してもらえぬ姿勢を貫きたい)とその人柄に魅了されました。

そんな時、Oさんから倫理法人会を紹介されました。Y氏は(会社の発展と自己変革を図りたい)と決心して「経営者モーニングセミナー」に参加するようになりました。毎週、輪読する『万人幸福の栞』の内容や講師の体験談を聴くたびに、これまでの自己の生活態度が、いかに自分勝手であったのかと思ひ知らされました。

Y氏は起業して以来、自己の体調や家族を顧みない生活を送り続けてきました。一日の仕事が終わると毎晩のように飲み歩き、



自己のわがままな心の バロメーターは 愛犬の反応にあり

経理を担当している妻から窘められることも度々でした。「人の何倍も働いている。俺の行動に口出しするな！」と大喝し、妻の心を察することはありませんでした。二人の幼い子供も泥酔して帰るY氏を見ると、逃げるように部屋へこもり、家庭愛和など微塵もない有様でした。会社でも同様で、社員を信頼せず、自分のやり方を押しつける、典型的なワンマン社長だったので。

そんなY氏でしたが、純粹倫理を学ぶ中で、(明朗愛和の家庭や会社を築くには、亭主関白でありワンマン社長である自己を返上しなくてはいけない)と心に決めたのです。その一歩として、家族、社員への「挨拶」の実践に取り組み始めました。ところが、周囲の反応は今ひとつでした。妻からは「どうせ三日坊主でしょ」と憎まれ口を叩かれるだけです。社員皆の冷めた態度から、頭に血が昇ることもしばしばでした。

それでも挨拶を続けた成果は意外なところから表われました。かつて、愛犬と散歩に出ると、隙を見ては逃げ帰り、小屋へ隠れてしまいました。しかし最近、Y氏が帰ると尻尾を振り近づくようになったのです。それに呼応するように、家族との会話も増え、笑顔が溢れるようになったのです。

会社においても、Y氏から率先して挨拶し、社員に仕事を任せ切るようになってから、社内の雰囲気は明るくなり、社員の誰もが、伸び伸びと働くようになったのです。

その後、Y氏の心のバロメーターは、愛犬の反応に表われているといいます。